

令和4年度

事業報告書

元気館障害者

デイサービスセンター

目 次

1. 寄附	1
2. 生活介護	1
2-1 利用者の状況	1
2-2 利用実績	2
3. 機能訓練	2
3-1 利用者の状況	2
3-2 利用実績	3
4. 地域活動支援センター	3
4-1 利用者の状況	3
4-2 利用実績	4
5. 放課後等デイサービス	4
5-1 利用者の状況	4
5-2 利用実績	4
6. 一般相談支援事業	5
6-1 基本相談支援	5
6-2 地域移行支援	5
6-3 地域定着支援	6
7. 特定相談支援事業	6
8. 居宅介護事業（移動支援）	7
8-1 利用者の状況	7
8-2 利用実績	8
9. 保健衛生	8
10. 行事	9
11. 給食	9
12. 災害防護訓練	10
13. 職員の配置状況	10
14. 職員研修	11
14-1 内部研修	11
14-2 外部研修	11
15. ボランティアの受け入れ	12
16. 視察・研修・慰問の受け入れ	12
17. 実習の受け入れ	12
18. 苦情相談	12
19. 事業計画等に対する評価	13

令和4年度 事業報告

令和4年度は、柏崎市の指定管理第4期目の2年目である。利用者一人一人のニーズに添い、基本方針の「明るく楽しいデイサービス」を念頭に、デイサービス事業は生活介護、機能訓練、地域活動支援センターⅡ型、放課後等デイサービスの多機能型でサービス提供を行った。

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、当事業所内でも利用者、職員共に感染や濃厚接触者になることが増えた。福祉課への報告、利用者への適切な情報発信を行い事業継続に努めた。事業所内の感染拡大にはならなかったことが幸いであった。感染予防に努めながら利用者同士の交流ができるように支援し、放課後等デイサービスでは夏休みなど長期休暇には児童と成人と一緒に楽しめる活動を提供した。

相談支援事業ではフォンジェ地下のサテライト相談窓口みどころを事務スペースとして活用するため、午後だけではなく午前から相談員が出向くようにした。法人内の事業所で製作した作品や野菜の販売も継続している。

居宅介護事業では特に対人支援のスキルが必要な利用者のニーズが多く、強度行動障害実践研修を修了した職員を複数名配置した。また吸引等の医療的ケアが必要な利用者に対応するため看護師の配置を継続した。以下、令和4年度の事業を報告する。

1. 寄附

①寄附金
なし

②寄附物品
なし

2. 生活介護

1日平均の利用人数が、17.8人から17.4人とほぼ前年度の利用人数を維持した。平均障害支援区分は4.8で前年度から0.2高くなった。看護師を配置し、吸引や経管栄養など医療的ケアが必要な利用者8名に対応している。強度行動障害支援者養成研修を修了した職員を配置し、重度支援に対応できる職員数を確保した。

2-1 利用者の状況 (令和5年3月31日現在)

①年齢別人数及び平均年齢

(単位:人)

年齢	20歳未満	20歳以上40歳未満	40歳以上65歳未満	65歳以上	合計	平均年齢(歳)
男性	1	11	10	1	23	40.7
女性		8	11	3	22	47.6
計	1	19	21	4	45	44.0

②障害支援区分別人数

(単位:人)

区分	1	2	3	4	5	6	計
男性		1	4	4	8	6	23
女性		2	2	1	5	12	22
計		3	6	5	13	18	45

③身体、知的、精神の各障害

(単位:人)

障害別	身体障害	知的障害	精神障害	発達障害	計
男性	11	11	1		23
女性	9	12	1		22
計	20	23	2		45

2-2 利用実績

(1日定員18人)

(単位:人)

月	利用者実数	新規登録者数	終了者数	延べ利用者数	利用率 (%)	1日平均利用者数
4月	42	2		369	102.5	18.5
5月	45			358	104.7	18.8
6月	45			420	106.1	19.1
7月	46		1	364	101.1	18.2
8月	41			396	100.0	18.0
9月	40			347	96.4	17.4
10月	41			340	94.4	17.0
11月	41			347	96.4	17.4
12月	40			315	87.5	15.8
1月	36			303	88.6	15.9
2月	35			306	89.5	16.1
3月	38			371	93.7	16.9
年間合計		2	1	4,236	96.8	17.4

3. 機能訓練

1日平均利用者数が、1.0人から1.2人とわずかに増加した。医療機関と連携し、作成されたメニューに沿ってリハビリを実施した。

3-1 利用者の状況 (令和5年3月31日現在)

①年齢別人数及び平均年齢

(単位:人)

年齢	20歳未満	20歳以上40歳未満	40歳以上65歳未満	65歳以上	合計	平均年齢 (歳)
男性	1		2		3	38.0
女性						
計	1		2		3	38.0

②障害支援区分別人数

(単位:人)

区分	区分なし	1	2	3	4	5	6	計
男性	1			2				3
女性								
計	1			2				3

③身体、知的、精神の各障害

(単位:人)

障害別	身体障害	知的障害	精神障害	発達障害	計
男性	2		1		3
女性					
計	2		1		3

3-2 利用実績

(定員3人)

(単位:人)

月	利用者実数	新規登録者数	終了者数	延べ利用者数	利用率 (%)	1日平均利用者数
4月	4	1		29	48.3	1.5
5月	4		1	32	56.1	1.7
6月	3			27	40.9	1.2
7月	3			19	31.7	0.9
8月	4	1		20	37.0	0.9
9月	4			34	56.7	1.7
10月	4			31	51.7	1.6
11月	4			29	48.3	0.9
12月	4		1	27	45.0	1.4
1月	3			13	22.8	0.7
2月	3			18	31.6	0.9
3月	3			19	28.8	0.8
年間合計		2	2	298	40.9	1.2

4. 地域活動支援センター

生活リズムを整えることを目的とした利用(送迎サービス有)及び利用者間の交流の機会の提供等へ対応した。土曜日は革細工、絵画、ペーパークイリング、編み物の作品作りを行った。11月には柏崎刈羽自立支援協議会主催の「柏崎ギャラリー」に出品した。

1日の平均利用者数(3回/月の土曜日利用含む)は4.8人となっており、昨年度から1.0人の減少となった。新規利用者が多い反面、体調が安定せず長期入院となる方や介護保険へ移行する方も多かった。利用者の年齢が全員40歳以上となっている。

4-1 利用者の状況(令和5年3月31日現在)

①年齢別人数及び平均年齢

(単位:人)

年齢	20歳未満	20歳以上40歳未満	40歳以上65歳未満	65歳以上	合計	平均年齢(歳)
男性			7	1	8	57.1
女性			17	1	18	52.6
計			24	2	26	54.0

②障害支援区分別人数

(単位:人)

区分	区分なし	1	2	3	4	5	6	計
男性	3		3	2				8
女性	7	2	5	2	1		1	18
計	10	2	8	4	1		1	26

③身体、知的、精神の各障害

(単位:人)

障害別	身体障害	知的障害	精神障害	発達障害	計
男性	4	1	3		8
女性	7	6	5		18
計	11	7	8		26

4-2 利用実績

(定員10人)

(単位:人)

月	利用者実数	新規登録者数	終了者数	延べ利用者数	利用率 (%)	1日平均利用者数
4月	20		2	105	48.8	4.6
5月	26	2		124	56.4	5.6
6月	26	1		151	60.4	6.0
7月	26			115	52.3	5.2
8月	25	1	1	113	47.0	4.7
9月	25	1		120	52.2	5.2
10月	25	1	1	109	47.4	4.7
11月	23			107	46.5	4.7
12月	24	1	1	85	38.6	3.9
1月	23	1	1	85	38.6	3.9
2月	21			92	43.8	4.4
3月	23		3	105	42.0	4.2
年間合計		8	9	1,311	47.7	4.8

5. 放課後等デイサービス

1日の平均利用人数は3.8人となっており、昨年の3.2人から0.6人増加した。市内小学校の支援学級に在籍する児童の利用が増えた。利用の希望に応えるため送迎を工夫している。

5-1 利用者の状況 (令和5年3月31日現在)

① 年齢別人数及び平均年齢

(単位:人)

年齢	7歳以上10歳未満	10歳以上13歳未満	13歳以上16歳未満	16歳以上19歳未満	合計	平均年齢(歳)
男性	4	1	1	3	9	12.4
女性	1	1	1	2	5	13.8
計	5	2	2	5	14	12.9

② 身体、知的、精神の各障害

(単位:人)

障害別	身体障害	知的障害	精神障害	発達障害	計
男性	4	4		1	9
女性	3	1		1	5
計	7	5		2	14

*身体障害に重症心身障害児を含む。

*登録14名中 入浴希望者4名

5-2 利用実績

(定員5人)

(単位：人)

月	利用者実数	新規登録者数	終了者数	延べ利用者数	利用率 (%)	1日平均利用者数
4月	11	2		72	72.0	3.6
5月	11			81	85.3	4.0
6月	11			90	81.8	4.1
7月	12			81	81.0	4.1
8月	11			82	74.5	3.7
9月	12			82	82.0	4.1
10月	11			77	77.0	3.9
11月	11			66	66.0	3.3
12月	11			60	60.0	3.0
1月	11			63	66.3	3.3
2月	12	1		73	76.8	3.8
3月	13	1	2	93	84.5	4.2
年間合計		4	2	920	75.2	3.8

6. 一般相談支援事業

相談支援専門員3名(専従1、兼務2)と相談員1名を配置し、柏崎市と刈羽村からの委託を受けて相談事業を実施した。基本相談支援事業の実人員が79人(昨年度より23人増)、対応件数は311件(昨年度より123件増)となっている。地域移行支援の利用は無し(昨年度は1名)、地域定着支援の契約者3名中(昨年度6名)、1名に対応した。柏崎刈羽地域障害者自立支援協議会の部会(サービス調整連絡会議、精神障害部会、子ども部会、相談支援連絡会)やプロジェクトに相談支援専門員を派遣した。中越圏域相談支援事業連絡調整会議、中越圏域自立支援連絡調整会議地域移行支援部会に参加し関係機関との連携に努めた。

6-1 基本相談支援

①基本相談支援を利用した障害者等の人数

(単位：人)

	実人員	身体障害	重症心身障害	知的障害	精神障害	高次脳機能障害	発達障害	その他
障害者	61	59	0	75	84	3	24	26
障害児	18			27	3	0	11	16
計	79	59	0	102	87	3	35	42

②支援方法

	受信・発信共に計上								計
	訪問	来所相談	同行	電話相談	電子メール	個別支援会議	関係機関	その他	
件数	27	42	8	56	0	17	157	4	311

③支援内容

	福祉サービスの利用等	障害病状の理解	健康・医療	不安解消・情緒安定	保育・教育	家族関係・人間関係	家計・経済
件数	194	21	13	18		6	21

	生活技術	就労	社会参加・余暇活動	権利擁護	その他	計
件数	13	10			15	311

6-2 地域移行支援

施設入所者と精神科病棟の長期入院者の地域移行を支援するサービスだが、令和4年度は利用実績なし。

6-3 地域定着支援

①地域定着支援の緊急対応を利用した障害者等の人数

(単位:人)

	実人員	身体障害	重症心身障害	知的障害	精神障害	高次脳機能障害	発達障害	その他
障害者	1	1			1			
障害児								
計	1	1			1			

②支援方法

	受信・発信共に計上								計
	訪問	来所相談	同行	電話相談	電子メール	個別支援会議	関係機関	その他	
件数	1								

③支援内容

	福祉サービスの利用等	障害病状の理解	健康・医療	不安解消・情緒安定	保育・教育	家族関係・人間関係	家計・経済
件数							

	生活技術	就労	社会参加・余暇活動	権利擁護	その他	計
件数					1	1

7. 特定相談支援事業

270人(前年度より12名増)の計画相談の支援を行った。相談件数1497件(昨年度より280件減)となった。契約者の相談対応や新規の計画相談希望者に対応するため相談員3名(専従1名、兼務2名)と相談員1名の体制を維持した。

強度行動障害支援者養成研修(実践研修)、医療的ケア児等コーディネーター養成研修、「精神障害者の障害特性及びこれに応じた支援技法に関する研修」受講者が継続して相談業務を行った。

①計画相談支援を利用している障害者等の人数

(単位:人)

	実人員	身体障害	重症心身障害	知的障害	精神障害	高次脳機能障害	発達障害	その他
障害者	243	415	25	755	268	46	92	26
障害児	27	5	19	88			64	5
計	270	420	44	843	268	46	156	31

②支援方法

	受信・発信共に計上								計
	訪問	来所相談	同行	電話相談	電子メール	個別支援会議	関係機関	その他	
件数	58	36	21	192	10	490	682	8	1497

③支援内容

	福祉サービスの利用等	障害病状の理解	健康・医療	不安解消・情緒安定	保育・教育	家族関係・人間関係	家計・経済
件数	1042	89	94	33	16	41	35

	生活技術	就労	社会参加・余暇活動	権利擁護	その他	計
件数	48	9	7	15	68	1497

8. 居宅介護（移動支援）事業

延べ利用人数は居宅介護181人（前年度より35人増）、行動援護41人（同15人増）、同行援護23人（同同数）、重度訪問介護1人（同7人減）、移動支援32人（同同数）となっている。各事業のサービス提供にあたり、サービス提供責任者を中心にサービス提供内容の引継ぎ体制を整備（手順を明確にした書面を活用）した。

8-1 利用者の状況（令和5年3月31日現在）

①年齢別人数及び平均年齢

（単位：人）

年齢	20歳未満	20歳以上40歳未満	40歳以上65歳未満	65歳以上	合計	平均年齢
男性	1	4	6	2	13	43.9
女性	1	1	9	0	11	45.0
計	2	5	15	2	24	44.4

②障害支援区分別人数

（単位：人）

区分	区分なし	1	2	3	4	5	6	計
男性	1		4	3		4	1	13
女性	2	2	3	1		1	2	11
計	3	2	7	4		5	3	24

③身体、知的、精神の各障害

（単位：人）

障害別	身体障害	知的障害	精神障害	高次脳機能障害	発達障害	計
男性	6	3	4			13
女性	5	2	4			11
計	11	5	8			24

8-2 利用実績

(単位：人)

月	居宅介護	行動援護	同行援護	重度訪問介護	移動支援	延べ利用者数
4月	12	4	2		4	106
5月	12	4	3		4	116
6月	14	4	2		5	134
7月	14	3	2		3	116
8月	16	3	2		1	131
9月	16	4	2		2	120
10月	13	4	3		3	110
11月	18	4	2		3	137
12月	19	2	1		5	118
1月	17	3	1		2	122
2月	16	3	2			108
3月	14	3	1	1	2	111
計	181	41	23	1	32	1429

9. 保健衛生

新型コロナウイルスの感染症対策として、利用者・職員の検温、利用・勤務前の体調把握、定時の換気等、感染予防に努めた。また利用中に発熱がわかるケースがあったことから午睡後の14時にも利用者、職員の検温を追加した。職員はマスクの使用に加え、入浴や食事介助の場面に応じてフェイスガード、ゴーグル、使い捨てエプロンを使用した。また来客者の記録や職員、利用者（家族）の県外の往来の対応について法人の感染予防基準に従って対応した。

利用者、職員に感染者があったが、抗原検査キットによる陰性の確認や利用者へ適切な情報発信を行い安心してご利用いただけるように努めた。

月	内 容
年間を通して	新型コロナウイルス感染症対策 県の抗原検査キット配布申し込み、必要備品の確保
6月～9月	熱中症の予防
11月～3月	インフルエンザ感染予防の注意喚起

10. 行事

土曜日の創作活動利用者がコロナ禍になって3年ぶりに外出活動を行った。10月に夢の森公園に外出しビーズを使った創作活動に参加した。音楽ウイーク、ミニえんま市、運動会は前年度と同様にボランティアの依頼はせず、職員のみで提供した。豆まき、クリスマス会についても感染予防に努めた上で実施し、季節感を感じていただいた。

月	日	行 事
5月	16(月)～20日(金)	音楽ウイーク
6月	6日(月)～10日(金)	ミニえんま市
10月	8日(土)	夢の森公園外出
10月	24日(月)～28(金)	運動会
11月	14日(月)～18日(金)	チャレンジウイーク
12月	1日(木)～9日(金)	柏崎ギャラリーに創作作品を出品
12月	12日(月)～16日(金)	クリスマス会
12月	17日(土)	忘年会
2月	1日(水)～4日(金)	豆まき

11. 給食

月1回の給食会議で利用者の希望、要望や行事食について管理栄養士、厨房職員と協議した。

医師の指示がある7名へ療養食を提供し、アレルギー10名、禁止食品11名、ミキサー食4名へ対応した。

12月の大雪の際は厨房スタッフが出勤できず、また食材自体が不足する状況となり、今後の課題となった。

① 給与栄養量

栄養素 (単位)	エネルギー (kcal)	たんぱく質 (g)	脂質 (g)	炭水化物 (g)		カルシウム (mg)
					食物繊維(g)	
数値	609	23.1	16.2	96.4	5.9	125
栄養素 (単位)	鉄 (mg)	レチノール活性当量 (μg)	ビタミンB ₁ (mg)	ビタミンB ₂ (mg)	ビタミンC (mg)	食塩相当量 (g)
数値	2.8	249.0	0.34	0.28	35	3.1

② 食品構成

(単位; g)

食品	穀類		いも及び でんぷん類	砂糖及び 甘味類	豆類	種実類	野菜類	
	米類	小麦粉(そ の他)					緑黄色野菜	その他野菜
数値	82.5	6.4	17.1	8.7	11.2	0.24	58.65	76.59
食品	果実類	きのこ類	藻類	魚介類	肉類	卵類	乳類	油脂類
数値	0.07	8.64	0.74	18.09	30.6	6.9	3.11	2.75
食品	菓子類	嗜好飲料 類	調味料及び 香辛料類	調理加工 食品類	※日本食品標準成分表2015年版(七訂) 搭載 に準ずる。			
数値	—	345	177.7	6.75				

③ 食事時間と形態

食事	時間	形態
昼食	12:00	行事食の提供有
おやつ	14:30	手作りおやつ、お菓子、飲み物

④ 行事食

月	日	行事	献立(おやつ)
6	6(月)	えんま市	ひじきおこわ、すまし汁、焼きそば、たこ焼き、南瓜と枝豆のサラダ プリン
	7(火)		コーンご飯、白菜の味噌汁、お好み焼き、フライドポテト、ほうれん草 サラダ、りんごゼリー
	8(水)		鮭の和風ピラフ、野菜スープ、お好み焼き、チキンナゲット、中華サラ ダ、マスカットゼリー
	9(木)		炒飯、中華スープ、焼きそば、フランクフルト、大根サラダ、ピーチゼ リー
	10(金)		梅しらすご飯、豆腐の味噌汁、お好み焼き、コーンのかき揚げ、グリー ンサラダ、杏仁豆腐
12	12(月)	クリスマス	とうもろこしご飯、コンソメスープ、煮込みハンバーグ、ほうれん草の フレンチ和え、ストロベリーケーキ
	13(火)		えびピラフ、ポトフ風スープ、ミートローフ、白菜のお浸し、キャラメ ルケーキ

	14(水)		チキンライス、青菜のかき玉スープ、ミックスフライ、大根の柚子ポン酢和え、ロールケーキ
	15(木)		鮭ときのご飯、コーンスープ、ロールキャベツ、スパゲティサラダ、ダブルロール
	16(金)		ちらし寿司、すまし汁、鶏肉のピザ焼き、ポテトサラダ、チョコケーキ

1.2. 災害防護訓練

高所避難は年1回では避難方法が定着できないため年2回実施した。また不審者侵入防止訓練は利用者も参加することで、より実践的な訓練ができた。3月には元気館全体の避難訓練に参加した。

月	訓練項目
4	火災想定・消火訓練 マニュアル見直し
5	地震及び火災想定・消火訓練（避難場所車庫、職員による訓練）・パート職員マニュアル見直し
6	地震及び火災想定・消火訓練（避難場所玄関、利用者参加訓練、日中）
7	高所避難（風水害、津波等）訓練（職員による訓練）・パート職員マニュアル見直し
8	火災想定・消火訓練（避難場所車庫、職員による訓練）
9	風水害想定訓練（送迎時対応）マニュアル見直し
10	地震及び火災想定・消火訓練（避難場所車庫、訓練）
11	BCP計画見直し（感染症対策）
12	不審者侵入防止訓練（職員による訓練）
1	不審者侵入防止訓練（利用者参加訓練）・パート職員マニュアル確認
2	高所避難（風水害、津波等）訓練（職員による訓練）
3	BCP計画見直し（自然災害）

1.3. 職員の配置状況（令和4年3月31日現在）

職種	員数	常勤		非常勤		備考
		専従	兼務	専従	兼務	
センター長	1		1			社会福祉士
サービス管理責任者	1		1			介護福祉士
児童発達管理責任者	1		1			介護福祉士
サービス提供責任者	1		1			介護福祉士
医師（嘱託）	1				1	内科
看護師	4		3		1	正看護師（2） 准看護師（2）
支援員	10	4	3		3	介護福祉士（1） 保育士（1）
機能訓練指導員	1		1			正看護師
相談支援専門員	3	1	2			社会福祉士（1） 介護福祉士（2）
相談員	1	1				
訪問介護員	7		4	1	2	介護福祉士（2） 看護師（1）
運転員	2			2		普通2種免許（1） 大型免許（1）
事務員	1		1			

・職員実数 22名

・令和4年4月1日から臨時支援員1名（訪問介護員兼務）を雇用した。

14. 職員研修

オンライン研修を含め13名研修に参加した。法人で加入したサポーターズカレッジの活用も有効だった。

14-1 内部研修

① 法人（交換）研修

前年度に続き、新型コロナウイルス感染予防のため中止した。

② 施設（集合）研修

介護技術研修を予定していたが新型コロナウイルス感染予防のため中止した。

③ 施設（研修報告・意見交換）研修

外部研修の報告は各月の職員会議にて報告し共有した。

年 月	内 容
6月、9月 12月、3月	「虐待防止チェックシート」
8月、2月	職員面談
11月	「利用者アンケート」
1月27日	虐待防止委員会（にしやまの里と合同）

14-2 外部研修

① 外部研修

年 月 日	内 容	研修実施者	参加者
6月29日	認知症ケア・対応研修	新潟県社協	1
7月5日	精神障害者にも対応した地域包括ケアシステム構築研修会（市町村編）（オンライン）	新潟県	1
7月5日	より良い職場づくりのための業務改善研修	新潟県社協	1
7月7日	安全運転管理者等に関する講習	新潟県安全運転管理者協会	1
7月15日	精神障害者にも対応した地域包括ケアシステム・精神障害者支援体制加算算定研修（オンライン）	新潟県	1
8月31日	後期日程（オンライン）		
8月9日	口腔ケア研修	新潟県社協	1
10月6～7日	強度行動障害基礎研修	新潟県	1
10月27～28日 11月18日 12月23日	相談支援専門員現任研修（一部オンライン）	新潟県	1
10月15～16日	強度行動障害実践研修	新潟県	1
1月26日	障がい者支援の基礎「自閉症」（動画）	サポーターズカレッジ	1
2月21日	障がい者支援の基礎「知的・発達障がいの高齢化」（動画）	サポーターズカレッジ	1
3月6日	身体拘束に関する組織体制と支援の質の向上に向けた取り組み（オンライン）	新潟県重症児者支援連絡会 新潟県医療的ケア児支援センター	1
3月14日	障がい者支援の基礎「統合失調症と陽性症状の支援」	サポーターズカレッジ	1
計	13回		13名

15. ボランティアの受け入れ

新型コロナウイルスの感染予防対策のためボランティアの受け入れは休止した。運動会、えんま市、クリスマス会の行事は職員のみで感染症予防に努めながら実施した。

16. 視察・研修・慰問の受け入れ

県立はまなす特別支援学校職員の事業所見学と市立南中学校2年生の職場体験学習を受け入れた。

期 間	日数	学校・学年	種類	人数
7月25日	1日	新潟県立はまなす特別支援学校職員	事業所見学	3
7月27日～28日	2日	柏崎市立南中学2年	職場体験学習	1
計		2回		4名

17. 実習の受け入れ

17-1

保育実習生の施設実習を2名受け入れた。

期 間	日数	学校・学年	種類	人数
9月4日～5日	2日	新潟青陵大学短期大学部 幼児教育学科2年	施設体験実習	1
9月12日～13日 9月10日	2日	新潟青陵大学短期大学部 幼児教育学科2年	施設体験実習	1
計		2回		2名

17-2

はまなす特別支援学校の産業現場等における実習を2名受け入れた。

期 間	日数	学校・学年	種類	人数
6月14日～16日	3日	県立はまなす特別支援学校高等部2年	産業現場等の実習	1
7月12日	1日	県立はまなす特別支援学校高等部3年	産業現場等の実習	1
計		2回		2名

18. 苦情相談

令和4年度に受け付けた苦情はなかった。

19. 事業計画等に対する評価

(1) 生活介護事業について

柏崎市内では生活介護サービスを5事業所（入所施設を除く）が行っていて、それぞれが得意分野を生かして事業展開している。当事業所は三障害の方々に幅広くご利用いただいているが、特に入浴や軽運動のニーズに応えられることが大きな特徴であり、身体障害の方の受け入れ先として貴重な地域資源と考える。一方で重度支援手順書が必要な行動障害の方々への支援も求められており、強度行動障害支援養成研修に職員を派遣してきた。前々年度、前年度とほぼ定員並みの利用率となっており、当事業所の支援内容は一定の評価を得ていると考える。様々な障害をお持ちの方々が共に利用できるデイサービスを継続していくために、引き続き職員のスキルを高められるように努める。

(2) 相談支援事業について

令和4年度は3名の相談支援専門員と1名の相談員が障害福祉サービスが必要な方々の相談業務にあたってきた。デイサービス内に事務スペースが確保できず苦慮していたが、サテライト相談窓口みどころを午前中から活用することで、作業スピードは上がりつつある。他事業所の多くが2名体制ということもあり、新規の計画相談もできる限り受けるように努めてきた。今年度も相談支援専門員3名と相談員1名の体制で事業を継続していく。また、事業継続のためには相談支援専門員の研修修了者を確保し続けなければならない。現在の研修受講要件を満たせる職員の確保を含め、人材確保は当事業所だけでなく、市内の事業所が抱えている課題と考える。制度改正等も含め、情報収集に努めていきたい。

(3) 支援者の資質向上

(1) でも触れたが当事業所は障害種別を問わず、様々な方にご利用いただいている。職員は臨機応変に対応することが求められる。多くの職員が対応力を身につけ「明るく楽しいデイサービス」を目指して支援にあたっているが、管理者としてはこの2年間のコロナ禍で職員の研修を組めなかった反省点がある。職員のモチベーションの維持、スキルの向上のために有効な研修を改めて考えたい。